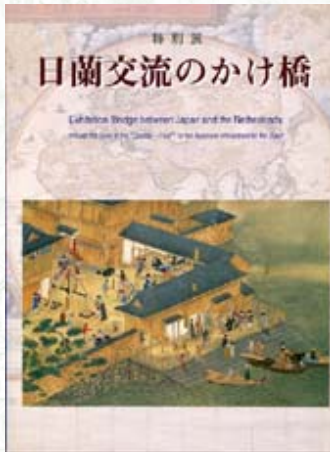


日蘭交流のかけ橋

江戸時代、出島でオランダとの貿易・外交・文化交渉の事務にあたった阿蘭陀通詞は、長崎奉行の配下で通訳兼商務官の役割を果たす一方、西洋の様々な情報や科学知識・技術を先駆的に習得し、蘭学や洋学の興隆に大きく寄与した。

長崎県立長崎図書館・長崎市立博物館・神戸市立博物館の3館が所蔵する阿蘭陀通詞・本木家の旧蔵資料は、数少ない阿蘭陀通詞のまとまった資料として貴重である。近年、このうち本木良永（1735～94）・正栄（1767～1822）父子の翻訳や関係資料を中心とするオランダ語文書について整理・研究が端緒につき、新知見が得られるようになった。

このオランダ語文書を初公開し、日蘭交流に関する新しい情報を紹介するとともに、良永・正栄が活躍した1800年前後に焦点をあわせ、国際交流の最前線で彼らに関った多岐にわたる仕事を様々な角度から検証。絵画から天文地理まで、多様な分野に多くの初公開資料を得て、これまで一般にあまり知られていなかった阿蘭陀通詞の実像と江戸時代の日蘭交流を新たな視点で捉える展覧会となった。



ブロンホフ家系図・長崎港図 川 瀬海都城図 荒木如元
原慶賀筆 筆



会期／平成10年1月24日（土）～3月8日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2

主催／神戸市立博物館、文化庁

後援／オランダ大使館、オランダ総領事館、（財）日蘭学会、日本科学史学会、関西日蘭協会

協賛／（財）伊藤文化財団

芸術文化振興基金助成事業

開催日数／38日

入館者数／9,519人

出品件数／255件